

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



僕は今回命の大切さ学習教室に参加して、命の重さを痛感しました。今まであたり前だったこと、これからずっと続いていくと思っていたことがある日突然なくなってしまうことは言葉にできないほどつらく、悲しいことなのだと思えました。そんなつらい経験をこれからこのようなことがまた起こらないように僕たちに話してくれてとても感謝しています。この時間で特に印象に残ったことは、雄宇也君の火葬場にたくさんの方が来てくれて、悲しんでいたエピソードです。一人の死でたくさんの方が悲しむほど命は重いものだと感じさせられました。

交通事故を完全になくすることは難しいと思うけれど、一人一人の考え、行動次第で減らしていくことはできると思います。だから、自分自身で交通安全に気を付けること、またそれを周りの人にも呼びかけていくことを意識していきたいと思います。また今ある生活をあたり前だと思わず、一つ一つの行動として一日一日を大事にすること、僕をここまで育ててくれた親、支えてくれたたくさんの方への感謝を忘れないようにしていきたいです。そしてこれから生活を充実させていけるようにしたいです。今回は貴重なお話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。

学校名

本荘高校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

金木 颯士 より

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



今回、講話をしていただきありがとうございました。

いつもそばにいた大切な人が突然いなくなる...それはとても辛く、どれほど悲しいことかと感じています。私も小学2年生の時に交通事故に遭ったことがあります。まさか自分が事故に遭うとは思いませんでした。相手の車が強くぶつからなかったのも無傷で済みましたが、もしもっとスピードが速かったらと思うとゾッとします。軽くぶつからただけでもびっくりするほどの衝撃を受けたのに猛スピードで来た車にぶつかられはねられた雄宇也さんはどれほど辛かったか、とても痛感しています。一生懸命育てた息子を亡くし、どんなに心が打ちのめされても、前を向いてこの出来事を次の世代へ伝え続けている雄宇也さんのお母さんにとっても感動しました。勇気をもらったような気がします。命の大切さ、事故の身近さに改めて気がされました。講話でもお話ししてくださったように、家族から与えられた命を大切に、「今」という時間を大事に生きていきたいと思いました。そして、家族や友達、色々な人に寄り添って、共に支え合って生活していきたいと思います。私に私の生きていく希望を教えてください。ありがとうございました。

学校名

本荘高校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

村上 真宙

より

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



先日は 私たちに命の大切さをお話していただき、ありがとうございます。大切な息子さんを事故で亡くされたことは、私には想像できないほど深い悲しみだと思っております。熊谷さんの言葉、一つ一つに強い気持ちがかめられていて、とても心に残りました。お話を聞きながら、家族や友達と笑い合える時間も、元気に学校に通えることも、決して当たり前ではなく「命があるからこそ」できることなのだと改めて思いました。そして、今自分が生きていることにもっと感謝しなければならぬと感じました。これからは、自分自身の命を大切にすることはもちろん、友達や家族と過ごす一瞬一瞬をとても大切にしたいと思っております。また、自分の行動で命が失われてしまうことがあるということを忘れず、交通安全にも今まで以上に気をつけたいと思っております。

今回、熊谷さんのお話を聞いたことは、私にとって大きな学びであり、とても貴重な経験になりました。勇気を出して伝えてくださった思いを忘れず、命の大切さを心に刻んで、これからも元気に生きてまいります。熊谷さんもどうかお体を大切にしてくださいね。貴重なお話を本当にありがとうございます。

学校名

本荘高校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

鈴木 幸芽

より

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



まずこのような講話を聞いて下さりありがとうございます。お話を聞いて、学ぶことがたくさんありましたが、それ以前にお話をするにあたって必要であるものに「勇気」が伝わってきました。その勇気あるお話をしていたいた中で、特に印象に残っている言葉が2つあります。1つ目は「事故は特殊なことではなく日常的におこってしまう」という言葉です。事故なんてきくとおこさない、自分には関係ないという考え方で生活してはいけないと講話を聞いて強く感じました。71かたは、あそこから車が来るかもしれない、ここから人がでてくるかもしれないと日常的に考えて行動する人が増えれば事故の起こる可能性が少なくなっていくと思うのでまず自分から始めていきたいです。2つ目は「もうこれ以上思い出は増えることはない」という言葉です。この言葉はともしりとした命の重さが感じとれる言葉だと思います。一度無くなってしまうともう二度と重かたないのが命、というのです。また、両親からもらった大切な命という言葉もありました。1つ1つの命は重く大切なもので、それが自分や相手のほんの少しの不注意で失われてしまうのは、特殊ではないということ。そして1度失ってしまうとこれ以上思い出は増えていかないうい貴重なものであると感じ、これからの人生を生きていきたいと思いました。「勇気」のある講話、本当にありがとうございました。

学校名

本荘高校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

小野 逢人

より

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



今日お話を聞いて私が通ったことのある道でも事故があるんだと実感しました。また、家族の気持ちなどの話を聞いて事故は絶対にあってはならないし、被害者側は元には戻らないので気をつけて走行することが大切だと思いました。事故の日の朝やその前も元気だった雄宇也くんにもまさかあんな事故が起こるなんて誰も考えられず、ご家族の方はとても辛いと思うととても悲しくなりました。また、加害者の態度や罪が軽くてとても許せません。いくら罪が重くても雄宇也くんが生き返ることはないのに深く反省していないのはおかしいと思います。一生忘れずに反省するべきだと思います。雄宇也くんが空の上で元気にしていることを願います。私も登下校などで自転車を利用してたまに転んだり、壁にぶつかったりしてしまいます。この話を聞いて事故に遭いたくないと強く感じたので、これからはより安全第一で走行したいです。まだまだこの世界では事故が多いし、雄宇也くんのような人もたくさんいると思います。この活動が続けることで心に響き、安全に走行してくれる人が増えると思います。また雄宇也くんも空の上でお母さんが活動していることを喜んでいると思います。この活動を続けてほしいです。そして事故を減らしたいです。応援しています。

学校名

本荘高等学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

伊藤 由良

より

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



私は今回の講話を聞いて改めて命の大切さ重さを理解しました。お話を伺いながら、お母さまがどれほど大切に息子さんを思っておられたか、また、その大切な命を失うことがどれほど深い悲しみなのかを胸に感じました。

私はこれまで「命は大切」という言葉をなんとなく知っているつもりでしたが、今日のお話で、その言葉の意味について深く考えることになりました。家族や友達と笑合えること、学校に通えること、そうした一歩一歩のこと決して当たり前ではなく、大切にしなければいけない時間だと思いました。

今日のお話を通してその重さを実感しました。これからは、相手のことを思う気持ちを大切にしながら、感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいと思えます。

勇気を出して私たちに伝えてくれた大切なことを心に刻み、これからの自分の行動や生き方につなげていきたいです。

本当にありがとうございました。

学校名

本荘高校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

伊藤 璃恋 より

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



交通事故により突然大切な家族を失う悲しみは想像を超えるものでした。講演の中で、「普通に帰ってくると思っていたのに、それが最後だった」という言葉が特に胸に刺さり、当たり前前の日常がどれだけ大切かに気がされました。これまで、交通事故はニュースの中での話で、どこか他人事のように思っていました。講演を聞いて、「自分も加害者にも被害者にもなり得る」ということを強く感じ、特に、もし加害者になってしまった場合は、「自分の行動で誰かの命を左右してしまうことになる」ということに気付き、強い責任を感じました。また、事故は一瞬で起きるのに残された人の悲しみは一生続いていくという現実を知り胸が痛み、雄宇也さんに哀悼の意を捧げると同時に、悲しみの中でもこのように命の大切さを伝える活動が続けているお母様に尊敬と感動を覚えました。この講演で一つの不注意が人の命を奪い、取り返しつかない結果を生むこと、そして、命は何よりも重いということを実感しました。今後の自分の生き方を見つめ直す、貴重な機会になりました。命を守るために、家族や友人とも交通安全について話し合っていました。本当にありがとうございました。

学校名

本庄高等学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

より

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



雄宇也くんが小学1年生という小さな年齢で突然の事故によって大切な命を奪われてしまったことを知り、とても胸が痛みました。雄宇也くんにはたくさんの夢や未来があったのに、それが一瞬で失われてしまったことを思うと、事故の怖さと命の重さを強く感じました。雄宇也くんのお母さんのお話から、ご家族の深い悲しみや「もっと一緒に過ごしたかった」という思いが伝わってきて、私も胸がしめつけられるような気持ちになりました。家族や友達と過ごせる日常は当たり前のことではなく、とても大切に幸せなことなんだと気づきました。今まで私は、道路を渡るときや自転車に乗るときに「これくらいなら大丈夫」と思ってほくことかありました。でも、ほんの一瞬の油断が大切な命を奪ってしまい、周りの人を深く悲しませてしまうことにつながるのだと今回の学習を通して知りました。これからは自分の命はもちろん、家族や友達の命を守るためにも交通ルールを守り、安全に行動していきたいと思います。今日学んだ「命の大切さ」を忘れずに、これからの毎日を大切に過ごし、家族や友達を大事にしていきたいです。雄宇也くんのお話を心に刻み、命を大切に生きていきたいです。大切なお話を聞かせていただき本当にありがとうございました。

学校名

本荘高校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

より